

溪和会江別病院 令和5年度病院指標

4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

<定義>

- ・成人(18歳以上)の肺炎患者さんについて、重症度別に患者数、平均在院日数、平均年齢を集計したものです。
- ・該当患者数が10名未満の場合は「-」にて表記しています。
- ・市中肺炎とは、普段の社会生活を送っている中で罹患した肺炎のことをいい、入院中の発症は含まれません。
- ・最も医療資源を投入した傷病名と入院の原因となった傷病名のICD-10コードがJ13～J18である患者さんが対象です。
- ・重症度はA-DROPスコアによって、年齢、脱水状態、呼吸状態、意識状態、収縮期血圧の5項目を点数化して評価しています。

A-DROPの内容(5点満点で、1項目該当する毎に1点)

年齢: 男性70歳以上、女性75歳以上

脱水状態: BUN 21mg/dL以上または脱水あり

呼吸状態: SpO2<=90%(PaO2 60Torr以下)

意識状態: 意識障害あり

収縮期血圧: 収縮期血圧90mmHg以下

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	-	-	-
中等症	71	14.52	76.65
重症	30	27.20	83.43
超重症	-	-	-

<解説>

中等症～重症が多く、70歳以上の患者さんの割合が高くなっています。

重症例では平均年齢が80歳以上となっており、平均在院日数も中等症より長くなる傾向にあります。

患者さんの症状に合わせて適切な治療を行っています。